椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第23号

平成30年6月1日発行
長野県小県郡青木村村松
発行人　本田昌彦
印　刷　杏花印刷

新生「嗚呼戦友」の碑

40余年の長きに渡り風雪に耐え、遺族と共に歩んできた慰霊碑は4年前に全面改修された。耐震や景観にも配慮した石碑は面目を一新、県護國神社の神域で、南十字星の下に散華したご英霊の慰霊と顕彰の場としての役割を未来に繋いでいる。

（昨年の戦没者慰霊大祭の日碑前に佇む会員の皆さん）

ニューギニア方面戦没者 慰霊大祭50回　節目を迎えて

長野県ニューギニア会　会長　本田 昌彦

木々の緑も日増しに色濃く、吹く風もさわやかな良い季節となりました。会員の皆様方におかれましてはお健やかな日々をお過しのことと拝察いたします。さて私ども長野県ニューギニア会は、お陰様で設立50周年を迎えることができました。来る7月の慰霊大祭は第50回の記念すべき大祭となります。当会の歩みを振り返りますと、昭和44年にニューギニア戦線で生還された戦友の皆さんのお骨折りで、亡き戦友を悼(いた)み慰霊のため長野県ニューギニア戦友会として発足しました。

初代会長故大久保豊様は20余年会長を務められ、熱き情熱と指導力を発揮され会の発展に多大な貢献をなされました。平成5年故土屋利喜太会長時代に戦友会と二世会（子供世代）を合併され、組織の強化・充実を図られ現名称に改められました。故高野尚会長の時碑の裏に芳名板設置、稲垣一良会長は会報「椰子の樹」の発刊、横田久前会長は「嗚呼戦友の碑」の改修など歴代の会長・役員・会員の方々が一致団結して事に当たり、当会の運営は順調に推移してきました。今後運営主体を次世代の三世（孫）以降に如何に継承していくかが課題です。創立以来当会は毎年7月の最終日曜日に、3，400余柱が眠る県護國神社での慰霊大祭を催行すると共に、昭和52年に始まった現地への慰霊巡拝を実施、55年にはコイキンマリックの丘に観音像を祀り、巡拝も今年で39回目となります。半世紀にわたり絶えること無く慰霊の誠を捧げてこられたのも、偏(ひとえ)に先輩・現役員・会員の方々の会に対する熱意とご支援の賜と心から感謝申し上げます。多数の犠牲者を出したあの悲惨で忌まわしい先の大戦の記憶を忘れることなく、全世界が戦争のない平和な社会の実現に努めていくことが私どもに課せられた責務です。

今年の慰霊大祭にはニューギニア写真展と記念講演会を開催しますのでご期待下さい。どうか皆様ご家族お揃いでご参加頂き盛大な慰霊祭になるようご協力下さい。

戦没者慰霊大祭50回記念事業

「南十字星の島」ニューギニア写真展開催

会員の皆様が現地慰霊巡拝などで撮影した写真中心に、約30点の作品を四ツ切りサイズでパネル展示いたします。

会場は護國神社内・美須々会館
7月29日（AM 9：00～PM 3：00）

記念講演会の開催

講　師：皇學館大学教授　中山　郁 氏
演　題：「慰霊巡拝の過去、現在、未来」

写真展作品公募します

テーマ：ニューギニアの現地で撮影した作品。現地慰霊祭、学校訪問、風景・動植物、祭り（シンシン）、子どもたちなど現地の人々、戦争の痕跡など。
作　品：カラー・白黒プリント単写真に限る。写真サイズはL判または2L判
撮影者・場所、写真説明を必ず記入してください。
応募締切：6月15日（金）必着。応募は1人3点以内とし、応募多数の場合は、実行委員会で展示作品を選定します。
応募先：〒381-2215 長野市稲里町中氷鉋559-2
大久保　寛憲（事務局）
返　却：応募写真は、後日応募者に返却します。

東部ニューギニア遺骨収集事業

第三次派遣報告　事務局長　大久保　寛憲
平成29年11月　現地調査実施

遺骨収集事業の前段として行われる現地調査は、昨年設立した「日本戦没者遺骨収集推進協会」ができる前は、厚労省から日本遺族会が委託を受け「東部ニューギニア戦友・遺族会」などが中心に行っており、培ってきた情報収集資料は多くを数え、現地調査での糧となり、遺骨収集事業の道標となっている。

今回は推進協会の小林氏を団長とし、同じく協会の梅森氏・日本遺族会より岡部氏・東部ニューギニア戦友・遺族会の森本氏、大久保の5名と既報の通り現地スタッフ6名の11名での行動であった。

昭和30年に初めて国による収集が行われたが、その後は戦友の方々の自発的な遺骨収集や情報聴取、そして現地の人々からの情報も大いに参考として今日まできたが、そのいずれもが今となっては時間が経ちすぎ記憶も薄れ、土地の形状の変化などで難航している、少ない情報の中から何とか糸口を探りつつ、行動しているのが実情だ。

問題点はそればかりではない、情報提供の際、遺骨発掘の際、遺骨引渡しの際、その何れも法外な金銭要求が多々あることも、問題だ。

PNGとインドネシア国境のインドネシア側の門

組織だった遺骨収集の始まる前の、良かれと思って行っていた金銭や物品授受が今となっては、大きな高く厚い壁となっていることも事実だ。

今回、情報収集を行った場所と結果は、時系列に以下の通り概要のみ記載。

11月11日・成田空港より出国。
11月12日・AM11・50宿泊地バニモ着・国境視察・ウトン村訪問村長不在。
11月13日・サンダウン州政府訪問、スコシオ村・インビニス村訪問、有力情報なし。
11月14日・ウエワク移動便欠航・宿舎にてインホメーション資料作成作業。
11月15日・東セピック州政府表敬訪問、ミッションヒルズ、ボイキン村、アワイン村、八幡山麓情報収集。
11月16日・オギナラ、クプレン訪問、新情報なし、ブーツ慰霊碑拝礼、ブーツ民泊。
11月17日・ボートでタラワイ島、ワリス島へ、ワリスでは新情報を得る、次回試掘できるよう地権者に協力要請。タラワイ島民泊。
11月18日・ボートでブーツ着ソナム集落訪問、当会建立の慰霊碑に線香手向け拝礼、周囲は花が植えられて、よく整備されていて、感動する。

マタパウ訪問、合計6柱受領坂東川にて休息し拝礼。アイタベ着PM5・50
11月19日・レミエン村にて情報を基に試掘、15～20チセン掘りご遺骨確認し現場保存をお願いし、本日の作業終了す。
11月20日・アイタベ行政府表敬訪問、昨日の現場で頭骨9体収容、ウエワクまでの帰途所要時間の関係で撤収。ウエワク着・PM8・30
11月21日・新たに現地ガイド1名参加、ウエワク周辺情報収集するも、地権者同士の争い、金銭的な問題、当方の対応の不備など有り収穫なし。
11月22日・マブリックへ移動途中、マリンにて情報提供者と接触するが収穫なし。マブリック着PM5・30
11月23日・マブリック行政府表敬訪問。ミラク、アミイ方面情報収集。
11月24日・ジャメ集落訪問、情報提供者を長時間待機、提供遺骨の鑑定、ヒアリングに長時間を要す。
11月25日・ウルップ訪問、3柱受領。第20師団朝2062部隊玉砕の地、慰霊碑に線香を手向け、礼拝。
11月26日・大草原地帯キニヤンボ、砂漠のオアシスの様に点在する小集落訪問、インフォメーション用紙配布。
11月27日・マブリックよりウエワクに移動、ウエワクホテルのご遺骨安置室へ今回収容した19柱を納め拝礼する。
11月28日・首都モレスビーへの航空機欠航。大使館への表敬など他の行事もキャンセル。ウエワク連泊。
11月29日・PM2・00ジャックソン国際空港より帰途へ。

ソナム集落の慰霊碑

ニューギニア雑記

◆バニモでは森林開発が進み結果、奥地まで木材運搬用の道路が整備され、現地の方々も住み慣れた土地を追われ、補償として建てられた住宅も板壁、トタン葺きの家となった。又、パームヤシ（洗剤油抽出）の栽培が大がかりで進行中。

◆20日のアイタベからの帰路車の揺れに任せて、幾つの川を渡るか、そして橋の架かっているのは幾つか数えてみた。ボイキンを過ぎた頃から夕暮れが進み、全てが判明できなかったが、結果、橋の架かっていた箇所は42カ所、橋がなく車で川を渡った箇所が58カ所だった。参考に全行程の走行距離を知りたかったが、どういう訳か、車のメーターの積算計は封印されていた。

川畑氏逝く

長年当会の慰霊巡拝では、大変お世話になった、ウエワクホテルの川畑静さんが4月10日、享年91歳で亡くなった。

立教大観光学部教授の豊田由貴夫氏が世話人となり、お別れの会が4月29日、東京池袋、東明飯店で行われ、奥様、次女マーシャさんのお子様、3女ミハルさんらが出席した。

当会からは、土屋顧問、原副会長、山岸幸子氏、山岸靖志の4名が出席し、日時変更などのトラブルもあり、総数30名弱で行われた。心より御冥福をお祈りいたします。

日章旗74年経て帰郷 ニューギニアから

持ち主　下諏訪町出身の小口孝人さん

先の大戦において、ニューギニアで戦死した下諏訪町出身の元日本兵、小口孝人さんが出征時に携えていった日章旗が、死後74年を経てこの程、同町を通じておいの小口洋太郎さん（74）に返還された。

日章旗は縦67チセン、横100チセンで、白地の部分に「祈健勝　小口孝人君」と書かれ、当時の小口守一下諏訪町長や孝人さんの父、兄の名前のほか、関係者70人が寄せ書きされている。

町によると、日章旗を持っていたのは米ニューヨーク州に住むトニー・エスポジートさん（94）。元米海軍掃海艇の乗組員として、沖縄戦に加わった。やはり元米兵だった親族から2年前に受け継いだ。

トニーさんは「旗を遺族の元に返したい」と昨年12月、現地の日本人の新聞記者に依頼した。連絡を受けた町と町遺族会が調査したところ、孝人さんは洋太郎さんの叔父であることを確認した。

小口さんの所属は歩兵第239連隊。中国大陸を転戦後、昭和18年2月約4100人が、ウエワクに上陸。マダン、ハンサ、セピック大湿地帯など想像を絶する難路を行軍し、昭和19年7月第18軍最後の組織的攻撃・アイタペ作戦で多くの戦死者を出した。

終戦後の昭和21年1月、内地生還者はわずか179人（4%）だった。

洋太郎さんによると、孝人さんは10人きょうだいの9番目、25歳だった1943年12月のラム川・ケトバにおける戦闘で戦死したとされる。

日章旗を前に洋太郎さんは「感無量。父が生きていたらどんなにか喜んだかわからない。大勢の人々の願いが込められている日の丸は感慨深い、アメリカにはお礼の手紙を出した」と話した。

青木悟下諏訪町長も「当時を振り返り、平和の大切さを感じる良い機会となる。日章旗は8月15日町主催の戦没者追悼式で、遺族の方々それに参列する多くの町民の皆さんに披露したい」と語っている。

写真＝帰郷した日章旗を前に感無量の小口洋太郎さん（下諏訪町矢木東の自宅で）

在PNG 日本大使館 移転新築

ワイガイ地区に完成した新大使館

ポートモレスビーの在PNG日本大使館の移転新築工事が終わり、3月26日から業務を開始した。

新しい大使館は、首都の官庁街にあたるワイガイ地区に建設されたもので、事務所、公邸、官員宿舎が同一敷地内に集約され、セキュリティと効率性が向上した。

中嶋敏特命全権大使は「首相府、外務貿易省、各国大使館などへのアクセスが容易になりました。慰霊巡拝などの機会に、皆様の来館をお待ちしています」と話している。

大地震や火山島大噴火 PNG各地で大きな被害

今年1月から2月にかけて東部ニューギニア地方で、火山の大爆発やマグニチュード7.5の大地震が起き、甚大な被害が発生した。

爆発的に噴火したのは東セピック州のマダンの北東25キロ沖のガドバー島、1500人の島民が本土へ避難している。

また、2月26日未明、ハイランド地方で大地震が発生、メンディ、マウントハーゲン、ゴロカなどを中心に大きな被害が出た。

ガドバー島の火山噴火は、1月から2月にかけ激しい噴火活動があり、ラバウル火山観測所によると、標高365メートルの山頂火口から火山ガスと溶岩の流出が続いている。

東セピック州のアラン・バード知事は「当分の間島民の帰還は難しい」の見解を示している。

噴火するガドバー島

平成30年度第50回通常総会の報告

第50回通常総会は、2月11日信州浅間温泉・「ホテル小柳」で開催した。

総会は、午後2時に成澤副会長の開会の言葉で始まり、南十字星のもとに眠る多くの英霊と、会員物故者に対して黙とうを捧げた。

本田会長は挨拶の中で「ニューギニア会は、今年設立50周年を迎えることができました。この間、戦没者の慰霊と、パプアニューギニア等関連する国々の国民との友好親善の促進を図ることもできた。

全国的に見ても、県単位でこうした活動を続ける団体はない中で、戦友会など先人の熱い思いを二世会が受け継ぎ、さらに次世代につなげるために、会員の皆さまのご支援をお願いしたい。

今年は大きな節目の年であり、夏の戦没者慰霊大祭に合わせて思い出に残る記念事業を計画したい」と挨拶した。

引き続いて本田会長が議長席につき、議事に入り

・平成29年度事業報告、
・総額1，517，987円の決算報告、
・平成30年度事業計画、
・総額1，811，000円の予算案、
・会則の一部改正

いずれも原案どおり承認された。

第50回総会で挨拶をする本田会長

◆平成30年度の主な事業計画

一、第50会ニューギニア方面戦没者慰霊大祭
平成30年7月29日（日）
長野県護國神社（松本市）

二、第39回東部ニューギニア方面慰霊巡拝団派遣
8月～9月までの期間に実施
第4回西部ニューギニア方面慰霊巡拝団派遣
実施時期未定

三、会報「椰子の樹」年2回発刊

四、長野県ニューギニア会ホームページの管理運用
第51回長野県ニューギニア会通常総会開催
平成31年2月11日
会場：未定

◆平成30年度予算

総額1，811，000円

主な予算（単位　千円）

慰霊大祭費	492
慰霊巡拝費	310
総会費	230
役員会議費	215
広報費	229
交際費	110
事務費	125
予備費	100

◆平成29・30年度役員

会長　本田昌彦ほか全役員が就任2年目に入りました。

事務局から

◎県護國神社で鳥居再建事業

長野県護國神社では昨秋10月、台風21号で倒壊した第二鳥居と、老朽の著しい第一鳥居、脇鳥居の再建事業を、神社創建80周年の記念事業として取り組むことなり、広く県下各方面に趣意書を配布し協力を呼び掛けています。

◎パプア大地震 現地への義援金に協力

東部ニューギニアの山岳地帯で発生した大地震災害に対して、当会は日本パプアニューギニア協会の被災者救済事業に協力し、義援金3万円を拠出しました。

同協会は総額74万円を現地大使館を通じてPNG赤十字へ4月23日贈呈しました。

現地慰霊巡拝団募集

★出発日　9月8日（土）
★帰国日　9月15日（土）
★訪問地　ご英霊が戦没した、ゆかりの場所を訪問出来るように、出来るだけ配慮致します。
★旅行経費　46万～50万
★募集人員　15名
★主催会社　（株）WBC　☎03-3588-0771
★募集締め切り　7月末迄
申し込み・問い合わせ先　事務局・大久保
☎026-286-2810

椰子の実

☆長野県護國神社でのニューギニア方面戦没者慰霊大祭が、今年で50回の節目を迎える。神事に合わせ記念講演会と会員の皆様が、慰霊巡拝で撮影した写真展の開催を準備しています。ご期待ください。

☆昨年末、3週間にわたり現地遺骨収集帰還事業に参加された大久保さんご苦労様でした。事務局長として多忙な中で、国の遺骨収集事業に参加され、少ない情報を頼りにご遺骨の収集に努める様子は報告書の行間ににじみ出ています。多くの未帰還の遺骨と共に、密林の中で朽ち果てるままの旧日本軍の航空機や大砲などの兵器の残骸も何とか処理できないものかと、気になるところです。

☆ウエワクホテルの川畑静さんが、91歳で死去されました。生涯の大半を異郷の地で戦没者慰霊や遺骨収集活動に尽力され、当会の現地慰霊巡拝の旅でも長い間定宿としてお世話になりました。

発展途上国のホテルであり停電や断水は日常茶飯事のこと、シャワー室の壁を這うヤモリに悲鳴を上げたのも、懐かしい思い出です。心より感謝し、ご冥福をお祈りします。

（Y・E）